

『此の藥を飲んでねたら好いよ』

『カルモチンだから體に障らない、安眠が出来るからね』

それから二十分ばかり居て淺野は、あすあさ又來るからと言つて歸つて行つた。

小便がヒリタヒ。

野田の洗面機に僕は小便をして、それを一杯になると野田は階下へ持つて降りた。
便所へ降りた。

僕は激しい下痢をした。

二三回便所へ通ふと、氣持がすっかり好くなつた。

『蟹の中毒だつたんだね、野田君』

僕は笑ひたい氣さへして、そして三時間ばかり眠つた。

目が覺めると、僕は熱が出てゐた。

頭が熱い。

大阪の姉に危篤直ぐ來いと云ふ電報を野田に打たしにやつて、序でにウエストミンスターを買